

紙面から
教 育 隨 想
「燕岳登山」
この人に聞く
特集
〔受け継がれる姉妹校交流〕
師弟同行
岩瀬則次・石川洋実
明治二十八年の職員写真
Foto・ヒストリー岡崎の教育

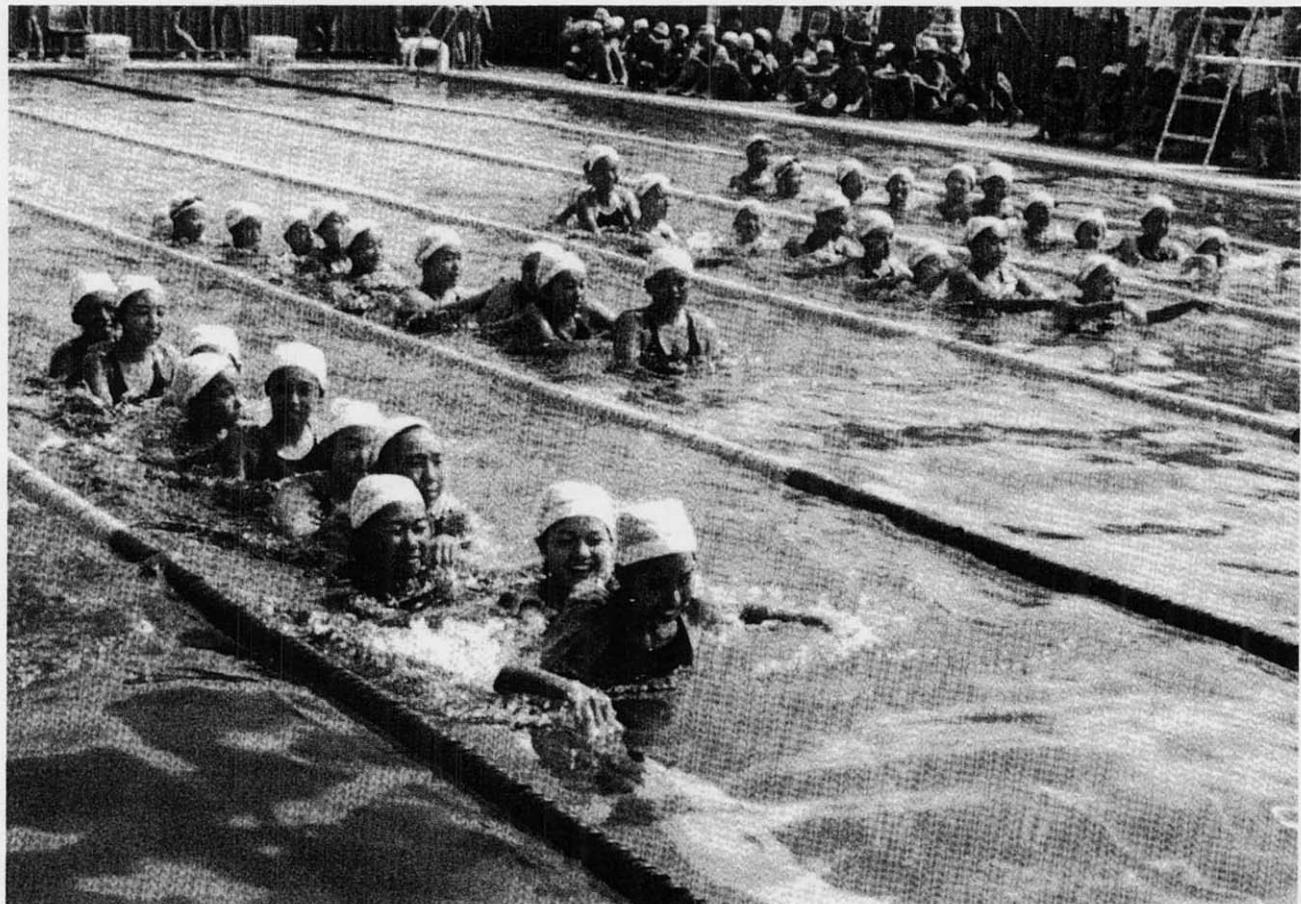
岡崎学園高等学校長
白井 通義 氏
岡崎市立中学校長
古沢 敏和 氏
水中カメラハウジング技術者
白井 通義 氏

7月号

平成9年7月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会



(あせらず確かな足どりで—矢作北中)

毎学期、期末試験が終わると学年毎に一クラスずつ回って、生徒一人一人から学年に応じたテーマで、話を聞かせてもらっている。

一学期は一年、二学期は二年、三学期は三年である。

これで、生徒が何を考え、何を望んでいるのかおおよそが把握でき、生徒からの質問に答えたり、施設等



— 教育隨想 —

「燕岳登山」

岡崎学園高等学校長

白井 通義



の改善要望に応じたりしている。

三年生には、在学中一番印象に残っていることを話してもらう。三年間の指導の総括である。

勉強は大変だったけど目標の大学に合格出来てうれしい、友達が沢山出来てよかったです、合唱コンクールで

モニーに仕上がった等々を語つてくる

れるが、共通して多いのが、一年生の燕岳登山の体験である。

本校では、夏休みに入ると、一年生を二団に分け、燕岳に登山する。

燕岳を選んだのは、頂上からの展望が素晴らしいこと、山小屋が整備されていること、信大医学部の診療所が開設されていること等集団登山をさせるに相応しい条件が整っています。

立山、薬師岳から槍ヶ岳まで続く稜線が天と地を分け、振り向くと妙高、浅間山、八ヶ岳、富士山、北岳が雲海に浮かぶ。

長い長い登りを登り切った者だけが堪能することの出来る眺望である。

また、この山には、高山植物の女王と言われるコマクサが群生していて、桜色の可憐な花をガレ場の中に幾つも幾つも咲かせている。

時には、夕方、安曇野から沸き上がりてくる雲の上に自分の影を落とすプロッケンの妖怪現象も見られる。

御来光は、山小屋の窓から拝める。

僅か二泊三日の行事であるが、耐えられないと思った登りの辛さは、

とにかくいつかの眺望と共に記憶に焼きつく。

そして、「私もやれば出来る」という自信をつけてこの行事の目的が達成されるのである。

すら登る。

この何とも耐えられないような登りを登り詰めると、突然、目の前が開け、北アルプスの山並みのパノラマが展開し、谷からの涼しい風がさつと吹き上げてくる。

立山、薬師岳から槍ヶ岳まで続く稜線が天と地を分け、振り向くと妙高、浅間山、八ヶ岳、富士山、北岳が雲海に浮かぶ。

長い長い登りを登り切った者だけが堪能することの出来る眺望である。

また、この山には、高山植物の女王と言われるコマクサが群生していて、桜色の可憐な花をガレ場の中に幾つも幾つも咲かせている。

時には、夕方、安曇野から沸き上がりてくる雲の上に自分の影を落とすプロッケンの妖怪現象も見られる。

御来光は、山小屋の窓から拝める。

僅か二泊三日の行事であるが、耐えられないと思った登りの辛さは、

とにかくいつかの眺望と共に記憶に焼きつく。

これは、学区・学校合同運動会で「学区民総踊り（五万石踊り）」を行った後に、学区の方々が漏らされた感想である。子供たちも、「すごかったね。近所の人たちが大勢踊ってくれてびっくりした。」「大人の人たちのやる気はすごかつたよ。」と、改めて学区の人々の素晴しさを身近に感じていた。

学校や地域は一つの時代であつても、子供にとつて魅力のあるところでなくてはならない。地域社会が変わればその変化を敏感に察知して、学校も主体的に対応することが必要とされる。一昨年の中教審答申には、「学校・家庭・地域社会の連携」が

羅針盤

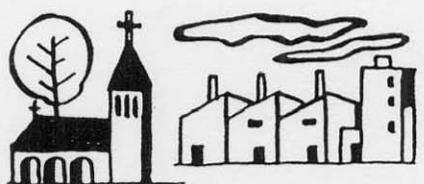
北野小学校長
後藤晶基

二者連携のある試み



ふるさとシリーズ

この人に聞く



水中カメラハウジング技術者

古沢 敏和 氏

「こんな物があつたらしいね。これなら、自分たちでも出来るんじゃないの。」

水中カメラの楽しさを知った古沢さんは、当初、外国製の水中ハウジングを使用していた。しかし、その大きさ、重さに不都合を感じ、またダイビングの先生の依頼もあって、自らハウジング作りに取り組んだ。

水中ハウジングとは、一眼レフカメラを水中に持ち込むためのボックスタイプである。古沢さんは、従来よりも小型軽量のアルミ鋳物製ハウジングを開発したのである。

「外國の物は、不具合があれば部品を増やして補強していた。そのことが、大きく重くしている原因でした。わたしは、それを精度でカバーしようとした。つまり、外国製は、二本のビスで水漏れが止まらないければ、四本使って止めた。しかし、それは本来のビスの役割ではない。わたしは原因をはつきりさせ個々の部品の精度を上げることにより、部品の数はそのまま水漏れを防ごうとしたのです。」

技術面での考え方、自社製品の良さを語るとき、古沢さんの目は輝く。

「たくさん作れば、売らなくてはいけない。また、精度も落ちてしまう。納得できるものを作るには、部品も大切な部分は自分で作るしかない。だから、大量生産はできない。それに、図面通りに作つても、わずかなひずみで、水漏れが起つってしまう。もし、他に請け負つてもらつて、納得いかない物が出来上がつても、図面通りならば、何も言えない。納得できないものを売つてしまつたら、それはお客様につくことになる。」

使い良さ、精度の良さを追及する、根からの技術屋である古沢さんの人間性が垣間見られる。

今後の展望をお聞きした。

「物が物だけに、この業界には、それほどの発展性はないでしょう。それよりも、今ある図鑑は、標本を元にして出来ている。だから実際とは違っている場合も少なくない。海中で暮らす生き物を、生きているままに伝えられたら、どんなに素晴らしいだろう。それが夢と言えば夢ですね。」

まさに、趣味を仕事にしてしまつた夢追い人の古沢さんらしい言葉である。

氏名 こざわ としかず
生年月日 昭和三十年四月一日
住所 蔚田一丁目一六番地一



強調された。それ以後、各学校では種々の取り組みがなされているが、地域の事情もありなかなか進展しないとも聞いています。幸い、地域では二十数年、地域コミュニティ推進が活発に行われて来た。年間を通して、学区民のふれ合いを深めようとする行事が計画されている。そんな中で、「グランドゴルフ大会」「歩け歩け大会」「たこ揚げ大会」等、十に余る行事が計画されている。そんな中で、学校・家庭・地域の連携にとって一番の掛け橋となる「子供が主役となる活動」をという願いから、社会教育委員会の諸団体やPTAの協力を得て実施したのが、「学区民総踊り」である。この試みを通して、子供たちは学区の一員としての自覚を高め、地域の良さを再認識することにつながってきた。

地域社会の中で子供たちが生き生きと活躍できる環境づくりこそ「連携」の第一目標と考えている。それには、地域社会が真に子供たちの様々な人間交流や、豊かな体験活動の場となるよう、教師側からの継続的な働きかけが必要であろう。私たち教師は、「連携第二の掛け橋」としての役割を十分に自覚し、自らを地域に開き深く関わっていく姿勢を、今こそ示さなくてはならない。

岡崎市立井田小学校

福山市立鞆小学校



▲姉妹校の碑 難破船の船板を使用 (昭和47年)

◀ 大漁節

鞆小学校の6年生児童が、鞆の町に伝わる大漁節を披露 (平成5年)

岡崎市が市制を施行したのは、大正五年七月一日のことである。時を同じくして市になつたのが、岡崎市の親善都市の一つである広島県福山市である。親善都市には他に沖縄県石垣市がある。今回は親善都市交流を、二つの姉妹校交流という視点から見てみたい。

昭和四十六年十一月、岡崎市と福山市が親善都市提携をしたのを機に、昭和四十七年八月、井田小学校と福山市立鞆小学校との間に姉妹校の縁結びがなされた。両校の交流は昨年度二十五周年を迎えたが、姉妹校提携をして以来、瀬戸内海に面した鞆小学校は「海の学校」として、文通や作品交換、児童・職員・PTAの代表による相互訪問などの交流が続けられている。

岡崎市と二つの親善都市

受け継がれる姉妹校交流



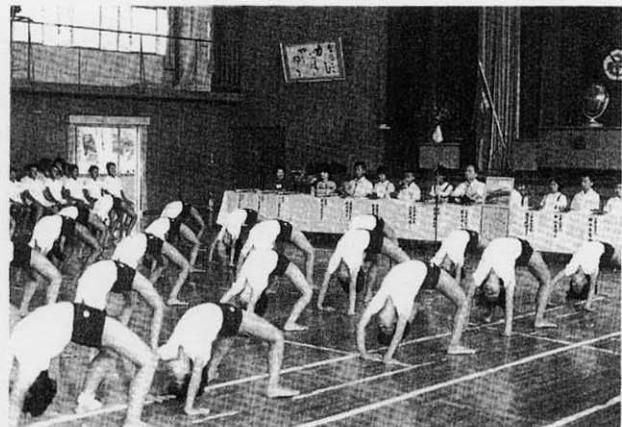


◀13年ぶりの訪問

小学校時代、井田小訪問団の一人として来校した山本雄三さんが、井田小学校を訪問 (平成4年)

▼体力作りの成果

鞆小学校訪問団に立ちブリッジを披露 (昭和59年)



▲校舎完工式に大浜小学校の方々を招待
(昭和58年)

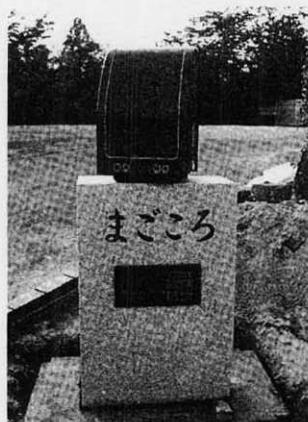


▲飛行機に乗って石垣島へ
(平成2年)

学校同士は遠く離れていても、心の交流はこれからも末永く続いていくだろう。

一方、奥殿小学校と石垣市立大浜小学校の交流は更に時代をさかのぼる。太平洋戦争当時、石垣市の旧大浜飛行場に駐屯していた岡崎出身の海軍将兵たちが、戦後「八重桜会」を結成し、戦争中お世話になつたお礼として大浜小学校に本や映写機を贈つたのがきっかけで、昭和三十九年一月姉妹校の提携がなされた。以来ずっと、両校の児童・職員・PTAの代表が相互訪問したり、作品交換したりといった交流が続いている。これが縁で昭和四十四年、岡崎市と石垣市は親善都市提携を結んでいる。

石垣市立奥殿小学校



▲きずなの碑・まごころの碑
大浜小学校創立100周年を記念して、同校に建立 (平成2年)

◀奥殿小学校にも建立された、まごころの碑 (平成2年)



常磐小学校

杉本 峰

ふるさと常磐

「おれ、大人になつたら、こ
こには住まんよ。何もない
だろ。」

六年生の数人がにぎやかに
話している横を通つたら、そ
んな言葉が耳に飛び込んでき
た。児童数が年々減少する中
で、高学年になるとそんなこ
とを考えている子もいるんだ
なと考えさせられてしまつた。

その時の言葉が忘れられず、
運動会の組み立てのテーマを
『ふるさと常磐』とした。

「青木川で遊べるし、緑がい
っぱいある。」

「川にね、エビもおるだよ。」

「やつぱり鬼祭りかな。」

子供たちからふるさと自慢
を集めたら、四年生から六年
生までみんなで考え、案を出
し合うことができた。

「おれ、大人になつたら、こ
こには住まんよ。何もない
だろ。」



組み立てと表現運動を合わ
せて行うのだが、いざ練習に
入ると肩車も倒立も容易では
ない。自分の体重を自分で支
えるのに必死である。

のんびりしていて、負けん
ちだが、一つずつ出来ること
が増えてきた。

「先生、わたしブリッジで歩
けたよ。」

R子が大喜びで教えてくれ
た。

「鬼祭りのところは、たいま
つをもつと大きく振りたい」

という反省を書いたH男。

子供たちの心に残る運動会
になればと願つてゐる。

人として・・・

六ツ美西部小学校

石川 洋実

岩瀬先生には、矢作中三年生
の時、担任の先生として大変お
世話をになりました。

あの頃の先生は若さあふれる
熱血教師で、私だけでなくクラ
スメイトたちも思わずその熱意
の中にひき込まれたものでした。
厳しさの中にも優しさとユ
ーモアを交えた授業で、教室に
はいつも笑い声が絶えませんで
した。受験生として、ともすれば
すさまがちな心を和らげ、人と
して最も大切なことは何かを教
えてくださったのも先生でした。

中学時代の私は、先生に心配
ばかりかけていたような気がし
ます。受験が近づくと、毎晩の
家庭訪問をして励まして
くださいました。また合格発表表
の折には、我がことのように喜

師弟同行



先生への憧れが、私を教師とい
う職業へと導いてくれたのだと
思います。まだまだ先生には遠
く及びませんが、私も一人一人
の生き方を大切にしながら教育
に携わっていきたいと思つてい
ます。

先生、くれぐれもお体を大事
にされ、これからも未熟な私に
ご指導の程よろしくお願ひしま
す。

研究発表会で、あなたが二年の
音楽の授業をしているのを見ま
した。子供たちは、身の回り
にあるもので楽器を作り、友達
と一緒にになって表現を工夫して
楽しんでいました。

子供たちの嬉々として活動し
ている姿を見て、あなた自身が
果たせなかつた音楽家への夢
を、子供たちに託しておられる上
のように思い、熱いものが込み上
げてきました。

子供に夢を託して

龍南中学校長

岩瀬 則次

あなたを担任してもう二十
年になりますが、当時あなた
の夢は音楽家（ピアニスト）
でした。見ていても本当に辛そうで
した。私が出来るることは家庭訪
問して「体に気をつけて頑張れ
よ」と励ますだけでした。し
かしあなたは決して弱音を吐く
ことはありませんでした。まさ
く掲げ、素直に伸びよ」とい
う校訓通りの大変素晴らしい生徒
でした。

その後、音楽家になる夢は果
たせませんでしたが、同じ教職
の道を歩んでいることを知り大
変嬉しく思いました。
ところで、平成六年広幡小の
音楽の授業をしているのを見ま
した。子供たちは、身の回り
にあるもので楽器を作り、友達
と一緒にになって表現を工夫して
楽しんでいました。
子供たちの嬉々として活動し
ている姿を見て、あなた自身が
果たせなかつた音楽家への夢
を、子供たちに託しておられる上
のように思い、熱いものが込み上
げてきました。

これからも、子供の感性や可
能性を引き出し、磨くための教
育実践に努力され、子供や地域
の人々から一層信頼される教師
になつてください。

銅賞
銀賞
金賞
優勝
グランプリ
小学生絵画コンクール
◆第十一回アイデアグランプリ
◆第二十一回愛知県中学生女子ソフトボーリ選手権大会
◆FBC県春花壇中央審査
◆第四回県ヴァーカル・アンサンブルコンテスト
◆松坂屋賞
◆城北中学校

根石小学校
県白石市で開かれた全国植樹祭で表彰された。
県白石市で開かれた全国植樹祭で表彰された。

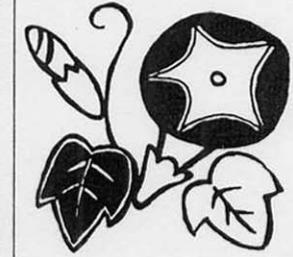
●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	六ツ美北	南	東海
	女	矢作	六ツ美	福岡
バスケットボール	男	竜海	竜南	城北
	女	竜南	竜海	南
バレーボール	男	矢作北	東海	六ツ美
	女	矢作北	矢作	竜南
ソフトテニス	男	常磐	城北	河合
	女	矢作	甲山	東海
卓球	男	城北	六ツ美北	矢作北
	女	六ツ美北	竜海	矢作
体操	男	竜海	甲山	
	女	甲山	竜海	矢作北
新体操	男	東海	竜海	
	女	甲山	竜海	矢作北
剣道	男	竜海	矢作北	葵
	女	六ツ美北	南	福岡
ハンドボール	男	葵	竜南	城北
	女	美川	竜南	六ツ美北
軟式野球	男	東海	六ツ美	矢作北
ソフトボール	女	城北	矢作	葵
柔道	男	六ツ美北	竜海	甲山
サッカー	男	竜南	南	新香山
				附属



▲宮城県白石市で開かれた全国植樹祭

お知らせ

◆平成八年度全日本学校関係
緑化コンクール

・学校環境緑化の部

特選 新香山中学校
準特選 緑丘小学校

両校は、五月十八日に宮城县白石市で開かれた全国植樹祭で表彰された。

◆第41回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●陸上競技（個人・1位のみ）

性	種目	氏名	校名	記録
男	1年 100m	中山 満	北	12'8
	100m	三城慶吾	福岡	12'1
	200m	酒井靖弘	六ツ美北	24'4
	400m	森野晃弘	六ツ美北	55'3
	800m	河澄宏幸	竜南	2'07'2
	1年 1500m	川野竜男	東海	4'47'5
	2年 1500m	石川雄基	福岡	4'34'9
	3000m	重見高好	竜海	9'13'9
子	110mH	成瀬康徳	常磐	17'0
	4×200mR	中島・近藤・築瀬・重見	竜海	1'39'9
	低4×100mR	西山・南・鈴木・廣瀬	東海	51'0
	走幅跳	上村貴之	矢作北	6m27
	走高跳	渡辺千裕	福岡	1m70
	砲丸投	中根恭太	南	12m83
	棒高跳	平松幸一	南	3m10
	1年 100m	内田琴美	矢作北	13'8
女	100m	橋口愛	矢作	13'2
	200m	鈴木美緒	福岡	28'1
	800m	福原未奈	六ツ美北	2'27'8
	1500m	宇佐美智子	甲山	5'04'0
	100mH	中澤由果	六ツ美	16'9
	4×100mR	野々山・森・金山・村上	竜南	54'1
	低4×100mR	上松・花井・斎藤・石田	竜海	55'9
	走幅跳	川畠恵美子	岩津	4m82
子	走高跳	都築有美子	六ツ美	1m40
	砲丸投	高橋身奈	福岡	9m89

●体操競技

(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名
男子	個人総合	三浦孝昌	竜海
	床運動	三浦孝昌	竜海
	鉄棒	三浦孝昌	竜海
	跳箱	三浦孝昌	竜海
女子	個人総合	加藤由佳	甲山
	床運動	加藤由佳	甲山
	平均台	加藤由佳	甲山
	跳箱	足立智美	竜海

●柔道

(個人・1位のみ)

性	階級	氏名	校名
男子	軽量級	近藤久王	新香山
	軽中量級	杉崎太介	六ツ美北
	中量級	富田宣克	竜海
	重量級	奈須隆之	六ツ美北
女子	軽量級	大沼佐月	矢作
	中量級	小林寛子	竜海

・表紙写真
カット

矢作北中
矢作南小

山本吉夫
篠田好香

明治38年の職員写真

和洋折衷の服装で、七名の教師それぞれがポーズを取っている。個性あふれる先生方の様子がうかがわれる。その当時は、テニスが大変盛んだったようで先生方もテニスのラケットを持って写真に納まっている。

丸刈りの頭でいかにも張り切っている先生の方の心意気が伝わってくるようだ。

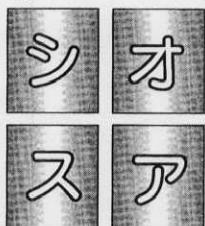
左上の立派な服装の方が校長先生である。



写真提供 福岡小



白い曇が真っ青な空に浮かぶ、
だれもが待つてゐる梅雨明けの七
月の空。一学期もあとわずか。充実した
日々を子供たちとともに過ごすことがで
きただろうか。
透き通る青空に良く似合う、すがすが
しい締めくくりをしたい。



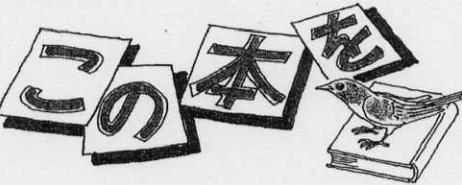
スペシャリストといわれるには、技術的な裏付けがなくてはならない。米国で最も権威のある科学地理雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」に認められた、古沢さんのハウジング技術は、国内外の多くの水中写真家に支持されている。

「おれがとうの校長は三宅先生だった。」
「三宅先生は剣道もやられだし、碁もやら
れて人格者だったなあ。」

その当時の生徒の回顧談である。個性あ
ふれる先生方の心意気が写真のポーズから
もうかがわれる。教え子の心に残る、
個性あふれる教育が切望される。

暑い夏の日、バスを降りて校門から続
く長い坂を登る。道の両側から大きな拍
手が起り、それに笑顔で応える。

こうした光景が、今まで何度も繰り返さ
れたことだろう。姉妹校交流は、長い歴
史を重ねる中で今日まで受け継が
れてきた、心の交流でもある。



*歴史からの発想	堺屋 太一
新潮文庫	¥ 476
*私は金正日の「踊り子」だった 上・下 申英姫	徳間書店
中公新書	¥1500
*動物の脳採集記	萬年甫
扶桑社	¥ 680
*笑壳人 林正之助伝	竹本 浩三
扶桑社	¥1400

*『戦闘集団の人間学』 大西一平著
クレスト社 ¥1600

神戸製鋼のラグビーといえば平尾だが、著者は7連覇の間、平尾の後を継いで3年間、主将を務めた。今は日本初のプロコーチだが、ラグビーにかける熱い想いを語る。

「ラグビーは、ルールのある喧嘩」だといふ。試合では、殴る、蹴る、踏むが当たり前。しかし、試合が終わると陽気でとても親切な人たちが多いとか。

また、ラグビーは楽しむべきものだと強く主張。ラグビーの本質が分かり、観戦がより楽しくなる本である。